



# 「私はこう考える」編 その6

# 美咲野小だより

7月

NO.21  
H28.7.21  
大津町立美咲野小学校  
文責：草場ルミ子

## 校長室の

七月十八日の海の日、梅雨明けが発表されました。大雨が続きましたが、やっと梅雨明けです。七月十三日の一斉下校の時間帯も雨が強く、場合によっては小床状態になるまで学校待機も考えましたが、美咲野小は学校から家までが近いこと、待機させると雨はもつとひどくなりそうなこと（雨雲レーダーより）から予定通りの時刻に帰しました。ずぶ濡れになって帰宅した子どももたくさんいたことでしょう。

美咲野小の子どもは長靴の割合が高い。レインコートやカッパ着用率も高い。なぜなら、美咲野小の子どもの多くは歩いて登下校するからです。学校によっては、雨が降ると当然のように車で送迎という雰囲気があるところもあります。（小学校は歩いて登下校してほしいとこの学校でも考えてはいるはずですが）安全面で配慮が必要な場合もあります。このように歩いても傘を差して長靴を履いて自分で歩いてくるという体験は、とても大切だと思います。

地震から3ヶ月が過ぎました。余震も少なくなり、だんだん地震のことが遠くのここのように感じるようになりました。でも、忘れてはいけないと思います。夏休み前に、「熊本地震 美咲野小の想い」は完結させたいと思っております。たくさんのお返事、まだ掲載していない分がありますので、もう少しおつきあい下さい。

○美咲野小だよりの各号を読むのに数日かかりました。とても胸が苦しくなり、校長先生の心痛が伝わり、私自身この震災を受け止め切れずに、なかなか向き合えずにいました。時系列で学校の対応や考えていらっしやっただことが書かれてあり、大変であったこと、子どもたちのことをとても心配されていたことが伝わりました。本当に思いもしないことが起こり言葉になりません。学校再開後、娘は喜んで登校しております。子どもたちが、少しでも日常を取り戻し、心のバランスをとることに大切さを実感しております。

○余震の数も減ってきて、徐々に日常を取り戻す中でこの便りを読んで、改めてあの地震の壮絶な状況を思い出すことができました。初めて命の危険を感じ、どうやって子どもたちを守ろうかと必死でした。地震直後は、アラーム音が鳴るたびに怯えていました。休校の間、家の近所の子どものたちとお外ですっと遊べたことで少しは気も紛れてよかったのかなと思います。わがまま、くすぐずは増えましたが、気をつけて見守っていきたいと思います。

○地震発生以降、ずっと仕事为中心となり、子どもたちの様子をじっくりと見ることができていないのが実情です。今のところ、二人とも以前と変わらない様子に見えますが、本当は違うのだろうか、後から出てくるのだろうかといった不安はあります。子どもの状況は気をつけて見ていきたいと思っています。

○今回、美咲野小の連絡の早さと対応に、とにかく驚きました。県内の他の学校の話聞いていたら、EARTHの方と連絡をとることが当たり前ではないと知りました。美咲野小の先生方の子どもへの配慮がとても行き届いていると感じました。



## 運動場の遊具が使えるようになりました

地震で運動場の西側に亀裂が入り、遊具周辺は立ち入り禁止にしていました。7月に入り、雨の合間を縫って運動場の工事が行われていましたが、最終的に13日に遊具の点検が終わり、お天気もよくなり、先週末から遊具で遊べるようになりました。特に1年生にとっては、入学後、遊びたくてたまらなかつたであろう場所。子どもたちも嬉しそうです。「今日から遊具使えますよ。」と伝えたときの1年主任の福田先生のとてうれしそうな顔。私も福田先生のうれしそうな表情を見て、さらにうれしくなりました。



## 甲斐真奈美先生 H28.7.4~H29.3.31 美咲野小の養護教諭として赴任されました

震災後、5月13日以降一週間交替で大阪府から養護の先生を派遣して頂いていました。その間、遅れていた健康診断関係の仕事や子どもたちへの対応等大変お世話になっていました。ありがたいなあと思っていましたら、なんと甲斐先生が来年の3月まで勤務して下さるとのこと。甲斐真奈美先生は山都町の出身で現在は大阪府東大阪市立小阪中の現役の養護教諭です。熊本のために派遣下さった大阪府にも大変感謝しています。

**くもと家庭教育支援条例 保護者の役割 (第6条)**

子どもに愛情を持って接し、子どもの生活習慣の確立、自立心の育成、心身の調和のとれた発達を図りましょう。保護者自らが成長していくように努めましょう。

